

第2節

父親のかかわりに対する
満足度と要望

6割の母親が、父親の育児参加に対して「満足している」と回答している。しかし、育児にもっと参加してほしいという要望も、8割弱の母親がもっている。家事参加に対する満足度は5割と、育児参加の満足度よりも低い。家事にもっと参加してほしいという要望を表明する母親は6割5分である。これらの割合は、5年前と比べて、ほとんど変化していない。

前節では、精神的なサポートの状況、家事や育児参加の状況が、この5年間でほとんど変化していない様子を示した。それでは、このような状況に対して、母親たちは満足しているのだろうか。また、父親に対して、もっと家事や育児に参加してほしいと考えているのだろうか。ここでは、父親の家事・育児参加に満足しているか、今まで以上に参加してほしいという要望があるかどうかについて検討しよう。

●家事・育児参加に対する満足も
父親への要望も変化していない

図3-2-1は、父親の育児参加に対する満足度を00年と05年で比較したものである。「満足している」（「とても満足している」＋「まあ満足している」割合、以下同様）という回答は、00年61.0%から05年61.4%と、ほとんど変化がないことがわかる。満足と不満足のおよそ6:4となっており、満足している母親が多い。

さらに、育児参加に対する要望を経年比較した結果が、図3-2-2である。「父親に対し育児にもっと参加してほしいと思うか」という問いに「とてもそう思う」と回答する母親は3割弱、「まあそう思う」と回答する母親は5割程度で、こちらもこの5年での変化は小さい。父親の育児参加の現状に対しては6割が「満足している」にもかわらず、8

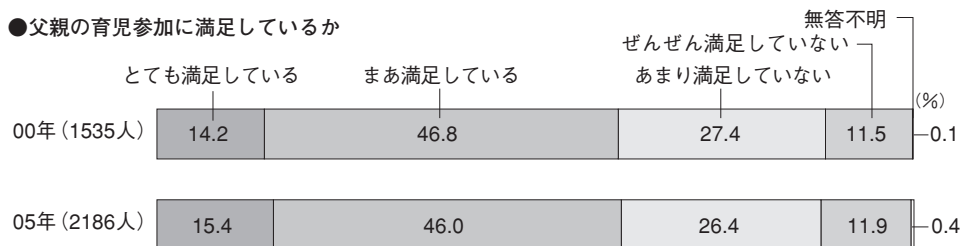
割弱の母親は父親にもっと参加してほしいと考えている。

つづいて、父親の家事参加についてたずねた。図3-2-3は、家事参加の満足度を経年で比較したものである。「満足している」のは00年49.5%、05年49.0%と、こちらも経年での変化がほとんどない。育児参加の満足度と比べると1割くらい「満足している」の数値が低い。これは先にみたように育児参加に比べて家事参加の頻度が低いためであろう。

家事についても、もっと参加してほしいと思うかたずねた。図3-2-4に示されているように、「とてもそう思う」2割、「まあそう思う」4割5分の割合は、5年間で変化していない。興味深いのは、満足度が比較的高い育児参加への要望よりも、満足度が低い家事参加に対する要望のほうが10ポイント程度低いことである。育児は満足していてもさらなるかかわりを求める傾向が強いのに対して、家事は満足度が低めであっても強く要求しない様子を表している。父親の育児参加は、母親にとってそれだけ優先順位が高い要求だと考えられる。

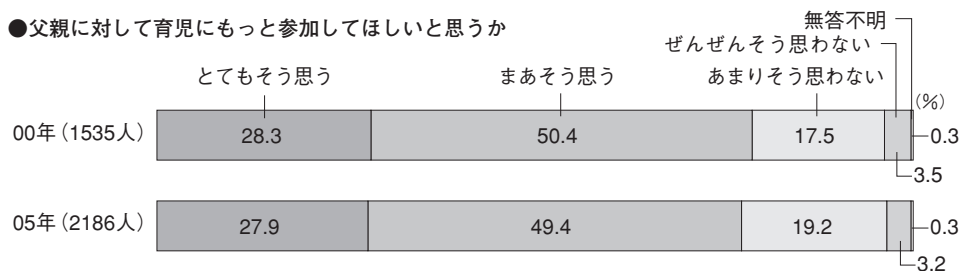
以上のように、家事、育児ともに父親のかかわりに対する満足度も、父親に対するいっそうの要望も、この5年ではほとんど変化がみられなかった。こうした結果は、前節でみたように、精神的なサポートの状況や家事・育児の参加実態に変化がないことを反映しているのかもしれない。

■図3-2-1 父親の育児参加への満足度（5年比較）



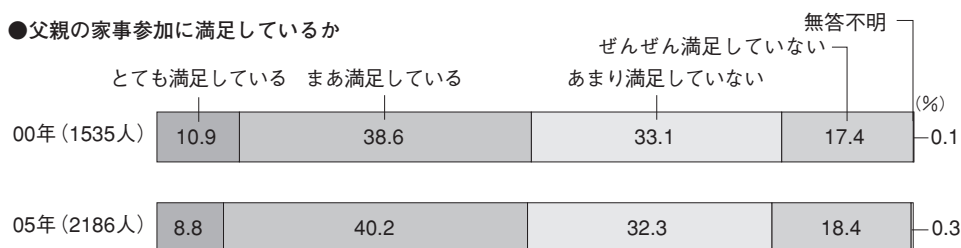
注) 配偶者がいる母親の回答のみ分析。

■図3-2-2 父親の育児参加に対する要望（5年比較）



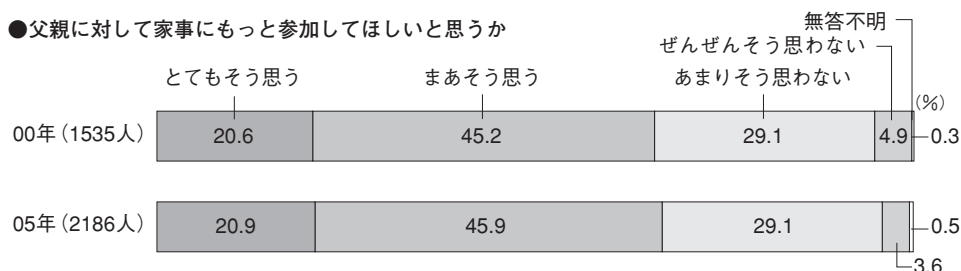
注) 配偶者がいる母親の回答のみ分析。

■図3-2-3 父親の家事参加への満足度（5年比較）



注) 配偶者がいる母親の回答のみ分析。

■図3-2-4 父親の家事参加に対する要望（5年比較）



注) 配偶者がいる母親の回答のみ分析。

● 父親の育児参加の満足度が高いと、 育児不安が低減する

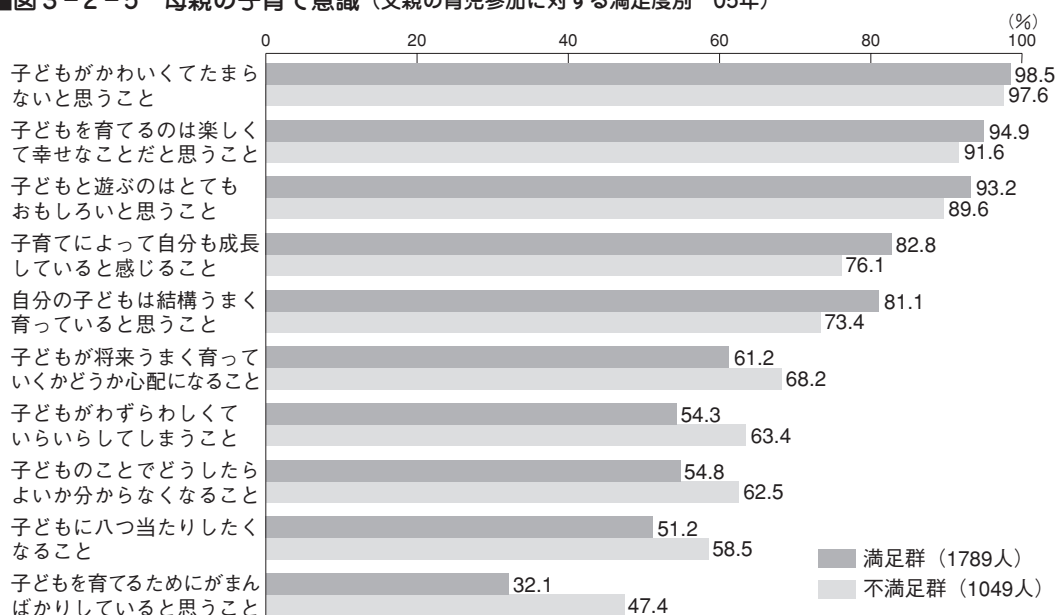
では、父親の育児参加に対する満足度の高低は、母親の心理状態にどのような影響をもたらすのだろうか。このことを検討するために、満足度が高い群（満足群＝「とても満足している」＋「まあ満足している」と回答した者）と低い群（不満足群＝「あまり満足していない」＋「ぜんぜん満足していない」と回答した者）に分けて、子育て意識の差を検討した（図3-2-5）。図をみると、満足群は子育てに対する肯定的な感情をもちやすく、不満足群は否定的な感情をもちやすい傾向があることがわかる。

ここでは、育児不安に関連する5項目に注目して、数値を確認しよう。「子どもが将来うまく育っていくかどうか心配になること」（満足群61.2%＜不満足群68.2%、「よくある」＋「ときどきある」割合、以下同様）、「子どもがわずらわしくていらいらしてしまう

こと」（54.3%＜63.4%）、「子どものことでどうしたらよいか分からなくなること」（54.8%＜62.5%）、「子どもに八つ当たりしたくなること」（51.2%＜58.5%）、「子どもを育てるためにがまんばかりしていると思うこと」（32.1%＜47.4%）など、いずれの項目も満足群のほうが、育児不安についての数値が低くなっている。以上から、母親が否定的な感情を強めず、肯定的な感情をもって安定した子育てをするためには、父親の育児参加が重要であることがわかる。

しかし、父親の育児参加に対する満足度は、何もしなければ高まらない。当然のことであるが、実際に父親がどれくらい育児に参加しているのか、その程度に依存する。父親が積極的に育児に参加していれば、父親の育児参加に対して母親の満足度も高まる傾向がある。母親が父親に対して信頼感をもち、安定した心理状態で子育てをするためにも、父親は育児の一端をきちんと担う必要があるといえるだろう。

■図3-2-5 母親の子育て意識（父親の育児参加に対する満足度別 05年）



注1) 「よくある」＋「ときどきある」の％。

注2) 「満足群」は父親の育児参加に対する満足度をたずねる項目で「とても満足している」「まあ満足している」と回答した人、「不満足群」は「あまり満足していない」「ぜんぜん満足していない」と回答した人を示す。

注3) 配偶者がいる母親の回答のみ分析。

注4) 0歳6か月～1歳5か月の乳幼児をもつ母親の回答を含む。